

**研究拠点形成事業
平成 29 年度 実施計画書**

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	九州大学
(インドネシア)拠点機関：	インドネシア大学
(タイ)拠点機関：	チュラロンコン大学
(マレーシア)拠点機関：	マラヤ大学
(中国)拠点機関：	北京共和医科大学
(ベトナム)拠点機関：	E病院

2. 研究交流課題名

(和文)：アジアにおける早期胃癌診断率向上のための継続的遠隔医療教育システムの構築
(交流分野： 医学)

(英文)：Continuous remote medical education for the diagnosis of early gastric cancer in Asia
(交流分野： medicine)

研究交流課題に係るホームページ：[http:// www.temdec.med.kyushu-u.ac.jp/](http://www.temdec.med.kyushu-u.ac.jp/)

3. 採用期間

平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日

(3 年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：九州大学

実施組織代表者(所属部局・職・氏名)：総長・久保千春

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：病院・教授・清水周次

協力機関：福岡大学、順天堂大学、大分大学、佐賀大学、国立がん研究センター、近畿大学

事務組織：九州大学国際部国際企画課国際交流係

相手国側実施組織(拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：インドネシア

拠点機関：(英文) University of Indonesia

(和文) インドネシア大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文)

Faculty of Medicine, Professor, Dadang MAKMUN

協力機関：(英文) Airlangga University, Padjadjaran University, University of Sumatera Utara, Gajah Mada University, Sebelas Maret University, Brawijaya University, Hasanuddin University

(和文) アイルランガ大学、パジャジャラン大学、スマトラウタラ大学、ガジャマダ大学、セバラスマレト大学、ブラウイジャ大学、ハサヌディン大学

(2) 国名：タイ

拠点機関：(英文) Chulalongkorn University

(和文) チュラロンコン大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)

Faculty of Medicine, Professor, Rungsun RERKNIMITR

協力機関：(英文) Mahidol University, Metropolitan University, Rajavithi Hospital

(和文) マヒドン大学、首都大学、ラジャビティ病院

(3) 国名：マレーシア

拠点機関：(英文) University of Malaya

(和文) マラヤ大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)

Faculty of Medicine, Professor, Khean Lee GOH

協力機関：(英文) University of Sabah, Islamic Science University of Malaysia, University Sains Islam Malaysia, Putra University of Malaysia, University Pertanian Malaysia, Monash University, National University of Malaysia, University of Science-Malaysia

(和文) サバ大学、マレーシアイスラム科学大学、聖イスラム大学、マレーシアプトラ大学、マレーシアペルタニアン大学、モナッシュ大学、マレーシア国民大学、マレーシア科学大学

(4) 国名：中国

拠点機関：(英文) Peking Union Medical College

(和文) 北京協和医科大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)

Faculty of Medicine, Professor, Xing-Hua LU

協力機関：(英文) Shanghai Jiao Tong University, Fudan University, Tianjin Medical University, Tsinghua University, Nanfang Medical University

(和文) 上海交通大学、復旦大学、天津医科大学、清華大学、南方医科大学

(5) 国名：ベトナム

拠点機関：(英文) E Hospital

(和文) E病院

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)

Gastroenterology Department, Associate Professor, Vinh Thuy NGUYEN

協力機関：(英文) 108 Military Central Hospital, Hue University of Medicine and Pharmacy, Pham Ngoc Thach University of Medicine, University of Medicine and Pharmacy at Ho Chi Minh City, Cho Ray Hospital, Viet Duc Hospital, Bach Mai Hospital, Hue Central Hospital, Hanoi Medical University

(和文) 108 陸軍中央病院、フエ医科薬科大学、ファムゴックタック医科大学、ホーチミン医科薬科大学、チョーライ病院、ビエットドゥック病院、バックマイ病院、フエ中央病院、ハノイ医科大学

5. 全期間を通じた研究交流目標

胃癌死亡率は全世界の全悪性腫瘍による死亡率の中で第3位を占め、その年齢調整死亡率は東アジアにおいて最多である(男性 28.1/10 万人; 女性 13.0/10 万人)。これはアメリカ合衆国の約 10 倍に当たる(男性 2.8/10 万人; 女性 1.5/10 万人)。日本において、かつて胃癌は部位別罹患数・死亡数共に第1位であったが、半世紀に渡る画像診断法の進歩と普及により早期胃癌の診断率が 60%に達し、その部位別罹患数は依然として第1位であるのに対し、死亡数は肺癌に次ぎ第2位へと低下した。この世界に誇る高い早期胃癌診断率を達成できた医療進歩の背景には、鮮明な画像を提供できる内視鏡機器の開発に加え、特に若手医師に対する体系的かつ継続的な教育システムの確立が不可欠であった。一方、胃癌の罹患率が高い他のアジア地域では未だそのほとんどが進行癌の状態で見られ、多くの命が失われ続けている現実がある。

これまでも医療分野のみならず様々な国際協力プロジェクトが生まれ内視鏡による胃癌の早期発見を教育する試みがなされてきたが、物理的移動を伴う支援や協力には継続性や経済性の点で限界があることも事実である。またこの問題点を解決すべく遠隔医療教育プログラムが試みられては来たが、医療映像に耐え得る高解像度のシステムを安価に提供することは困難であった。我々は 2002 年に世界で初めて高速インターネットを利用した医療動画像配信システムを開発してこれらの技術的問題を解決し、アジア各地と様々な遠隔医療教育プログラムを実行すると共に、そのノウハウと人的ネットワークを確立してきた。

本研究においては、この効率的かつ経済的な遠隔教育システムを利用してこれまで日本で培われてきた胃癌早期発見の診断方法をアジア諸国へ発信することにより、アジア各地における早期胃癌診断率を上げ、胃癌に罹患した患者の命を救うことを目指す。また遠隔交流による日常的な国際コミュニケーションへの暴露は、特に海外と接する機会の未だ少ない日本の若手医師・研究者の国際感覚を効率的に養い世界に通用する医師や研究者を育成すると共に、出産や育児との両立を目指す女性医師・研究者への積極的な関与を促す良いツールともなり得る。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

①共同研究

医師は早期胃癌の疫学ならびに内視鏡診断の現状について得た情報に基づき、早期胃癌に対する標準的な診断法における遠隔会議システムを用いた学習プログラムを提示して、各国拠点病院で参加可能な施設の同意を得た。

1年目の調査を受けて、全拠点機関との接続を確立して、早期胃癌に関する遠隔会議を定期的に開催することが可能となった。

技師は各国の核メンバー間において協力体制を構築でき、関連病院について最新情報やこれまでの成果、問題点を共有できた。得られた問題について議論を行い、未解決事項に関しての継続的検討について関係者の同意が得られた。

②セミナー

第1回の医工連携セミナーを2015年7月7日～8日に九州大学医系地区にて開催した。全員のメンバーの紹介、施設代表者より各施設の研究紹介、プロジェクトの目標の確認、今後の計画などを協議した。2016年2月22日～24日にはタイにて第2回のセミナーを開催し、各国拠点病院の医師より各国における胃癌の疫学データ、機器の整備状況、診断法などについてプレゼンテーションを行い、情報共有を行った。同時に、技術者は遠隔教育における技術的問題点を共有し、次年度以降の遠隔教育システムの接続に向けて各施設の解決策を話し合った。2016年12月2日～3日ベトナム（ハノイ）にて、研究機関の医師26名、技術担当者5人を招聘し「第10回アジア遠隔医療シンポジウム」と合同セミナーを開催した。その中で中国を除くベトナム、ミャンマーなどの胃癌多発国では早期胃癌はほとんど発見されておらず、多くは進行癌の状態で発見されていること、また近年胃癌の早期診断が改善傾向のある胃癌多発国においても内視鏡で発見される早期胃癌の割合は日本の約60%に比較してかなり低く、同時に施設格差も大きいという問題を抱えていることが明らかになった。またマレーシアやタイは、胃癌の原因と言われているヘリコバクターピロリ感染の頻度が少なく、胃癌の頻度がさほど高くないことも明らかになった。

③研究者交流

2016年8月にインドネシア（ジャカルタ）にて、第1回インドネシア遠隔医療ワークショップを開催した。医師9名、技術担当者14人をインドネシア全土から招聘して九州大学病院の医師や技術者と共に、これまで開催が困難であったインドネシア全土を結んだ初のテレカンファレンスの開催へ向け、プログラムと試験運用のための技術的問題点を徹底的に議論した。その結果10月からインドネシアの主要10大学病院を接続した消化器内視鏡テレカンファレンスが実現し、その後毎月定例で開催されることとなった。

中国の基幹施設からは医師3人を当院へ招聘し、1か月間の研修を実施した。また

2017年1月12日から3日間、九州大学病院の医師5名と技師2名が中国（上海）の拠点病院（復旦大学中山病院、上海交通大学第一人民病院）を訪問し、胃癌の早期発見法に関する講演や診断が困難な症例に関するディスカッションを行った。内視鏡室の設備や早期胃癌の診断・治療に関する現状を視察した他、技術担当者同士も今後の交流の計画や機器の整備状況などを確認した。

以上より本事業での2年目の目標についてはすべてを達成でき、3年間のプロジェクト目標の2/3を予定通り実現した。

7. 平成29年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

1. 2017年12月マレーシア（クアラルンプール）で予定されている「第11回アジア遠隔医療シンポジウム」と合同でセミナーを開催し、各研究機関の医師、技術担当者を招聘して遠隔医療システムを用いた胃癌教育プログラムについて発表や協議を行う。特に最終年となる本年度については、診断から治療面への拡大を含めた今後のさらなる発展についても討議する。
2. 開催国マレーシアのように胃癌が少ない国においても、本研究を通して得たノウハウを応用して、他の消化管疾患や膵胆道疾患などの胃癌以外の分野での遠隔カンファレンス実施の可能性について検討する。

<学術的観点>

2年目までにスタートさせた、早期胃癌の診断についての症例カンファレンスであるインドネシア内視鏡カンファレンス、早期胃癌の病理診断についての症例カンファレンスである日中早期胃がんカンファレンス、早期胃癌の内視鏡治療手技についての講義や症例カンファレンスを実施する内視鏡クラブEカンファレンスの継続実施を行う。同時にこれらのカンファレンスについて医学的および技術的問題点を再検討すると共に、早期胃癌診断に関する教育効果を評価する。

医療分野：

1. 前年度実施した早期胃癌診断に関する継続的な遠隔教育プログラムの教育効果に関する評価を行う。
2. 早期胃癌に対する内視鏡「治療」への展開について討議する。
3. 他の消化管疾患や膵胆道疾患などの胃癌以外の分野での遠隔カンファレンス実施の可能性について検討する。

情報技術分野：

1. これまでに確立した遠隔医療システムを用いて、全拠点機関を接続した遠隔医療プログラムを定例的に実施すると共に、協力施設を中心に接続施設数を増加させる。

さらに本事業参加国以外への拡大を目指す。

2. 実施したプログラムの技術的評価を行い、問題点の再検討およびその継続的改善を行う。

<若手研究者育成>

1. 若手技術研究者は、2017年8月26日～9月1日に中国（大連）で開催される第44回アジア太平洋学術ネットワーク（APAN）会議において医療ワーキンググループが主催するワークショップへ本事業経費外により多数招聘することにより、医療学術ネットワークの意義と基幹施設を中心とした遠隔医療会議システムの構築や更なる拡充に向けての問題点を共有する。APANを構成するワーキンググループの一つである医療ワーキンググループは代表理事5か国5名、運営委員13か国20名で構成されており、アジアを中心に学術ネットワークを用いた遠隔医療教育プログラムを推進している。（参考ウェブサイト APAN：<https://apan.net/>, APAN 医療ワーキンググループ：<https://apan.net/wg/medical>）
2. 初年度はベトナム、2年目は中国との交流を積極的に実施したが、最終年度はそれら以外の国の医師、研究者、エンジニアを積極的に1か月間の研修へ招聘し、また日本からそれらの国へも派遣することで、海外の医師や研究者との人的ネットワークをさらに拡大する。日本人医師、研究者、エンジニアはより多くの国の文化的背景を理解すると共に、日常的に英語によるコミュニケーションに慣れる機会をより多く持つことが可能となる。

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

アジア・アフリカのみならず、本研究を通して得たノウハウを応用して、他の胃癌多発国での遠隔カンファレンス実施の可能性を検討し、計画する。

8. 平成29年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成 27 年度	研究終了年度	平成 29 年度
研究課題名	(和文) 早期胃癌診断率向上のための遠隔医療教育プログラムの作成 (英文) Remote medical education program for the diagnosis of early gastric cancer				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 八尾建史・福岡大学・教授 (英文) Kenshi YAO, Fukuoka University, Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) Kaka RENALDI, University of Indonesia, Assistant Professor Pradermchai KONGKAM, Chulalongkorn University, Associate Professor Shiaw Hooi HO, University of Malaya, Assistant Professor				

	Fang YAO, Peking Union Medical College, Associate Professor Vinh Thuy NGUYEN, E Hospital, Associate Professor
29年度の 研究交流活動 計画	(1) 早期胃癌「診断」の教育効果に関する評価および問題解決、(2) 拠点施設以外の自国国内および近隣諸国への遠隔接続の展開、(3) 早期胃癌「治療」に関する教育プログラムの展開、(4) 胃癌以外の他領域における継続的遠隔教育プログラムのニーズに関する調査を計画している。(1)については、各施設に2017年12月にマレーシアで2日間にわたり開催されるアジア遠隔医療シンポジウムと共催予定のセミナー前までに早期胃癌の発見率についてアンケート調査を行い、セミナーにて各施設から成績を公表する予定である。(2)-(4)については各施設より現状を踏まえてセミナーにて議論を行う予定である。
29年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	1. 早期胃癌診断に関する遠隔医療プログラムの継続実施による教育効果に関する理解 2. 拠点施設のための遠隔会議の継続的な接続から、自国国内および近隣諸国への新たな接続に向けた組織作り 3. 早期胃癌「治療」や他分野への応用に向けた計画の立案

整理番号	R-2	研究開始年度	平成 27 年度	研究終了年度	平成 29 年度
研究課題名	(和文) アジアにおける遠隔医療教育システムの構築				
	(英文) Establishment of remote medical education system in Asia				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	(和文) 工藤孔梨子・九州大学・特任助教				
	(英文) Kuriko Kudo, Kyushu University, Research Assistant Professor				
相手国側代表 者 氏名・所属・ 職	(英文) Aria KEKALIH, University of Indonesia, Assistant Professor Chakaphan SOOKCHAROEN, Chulalongkorn University, Assistant Professor Mohamad Ahmad ZAHIR, University of Malaya, Assistant Professor Guijun FEI, Peking Union Medical College, Assistant Professor Ni Thanh LE, Cho Ray Hospital, Doctor				
29年度の 研究交流活動 計画	1. 2017年12月にマレーシアで2日間にわたり開催されるアジア遠隔医療シンポジウムと共催予定のセミナーにて、マレーシア国内の拠点施設における技術的現状及び活動状況を共有する。特にマレーシアが中心となりアジアの他施設を結び定期的実施している内視鏡クラブEカンファレンスにおける技術的フィードバックの回収及び検討を行う。セミナーへは30名程を招聘する予定である。 2. 2017年8月26日～9月1日に中国(大連)で開催される第44回APAN				

	<p>会議にて開催予定の遠隔医療ワークショップにて、基幹施設を中心とした遠隔医療会議システムの構築や更なる拡充に向けての問題点を共有する。APAN 会議へは、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、日本などアジア各国より 20 名程度を本事業経費外にて招聘予定である。</p> <p>3. その他、インドネシア大学やブラウィジャヤ大学、アイルランガ大学などインドネシア国内 10 施設程度と日本（九州大学病院）を接続し月例で開催している早期胃癌の診断についての症例カンファレンスであるインドネシア内視鏡カンファレンスや、3 ヶ月毎に北京協和医院や南方医科大学、復旦大学など中国 5 施設程度と九州大学や順天堂大学など日本 2 施設を接続し開催されている早期胃癌の病理診断についての症例カンファレンスである日中早期胃がんカンファレンスの定例開催について、技術支援を行う。また医師側より新たなプログラムの提示があれば順次接続テスト行いプログラムを実施する。</p>
<p>29年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胃がん診断率向上のための遠隔医療プログラムの定例開催、並びに治療や他領域へのプログラムの海内における技術的支援 2. 遠隔医療教育実施に関する各国の核となる技術者と日本国内の技術者の協力体制構築 3. 参加拠点の技術的情報の更新及び問題の継続的改善、並びに拠点国以外の周辺国への技術的支援の拡大

8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「アジア遠隔医療シンポジウム」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “Asia Telemedicine Symposium“
開催期間	平成 29 年 12 月 15 日 ~ 平成 29 年 12 月 16 日 (2 日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) マレーシア、クアラルンプール、マラヤ大学
	(英文) Malaysia, Kuala Lumpur, University of Malaya
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 清水周次・九州大学・教授
	(英文) Shuji SHIMIZU, Kyushu University, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) Shiw Hooi Ho, University of Malaya, Assistant Professor

参加者数

派遣先 派遣元	派遣先	セミナー開催国 (マレーシア)	
		A	B
日本 〈人/人日〉	A.	10/ 40	
	B.	5	
インドネシア 〈人/人日〉	A.	3/ 12	
	B.	3	
タイ 〈人/人日〉	A.	3/ 12	
	B.	3	
マレーシア 〈人/人日〉	A.	10/ 20	
	B.	100	
中国 〈人/人日〉	A.	6/ 24	
	B.	0	
ベトナム 〈人/人日〉	A.	3/ 12	
	B.	3	
合計 〈人/人日〉	A.	35/ 120	
	B.	114	

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)
 B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

セミナー開催の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本プロジェクトの目標の確認。 2. 昨年度の成果、本年度の計画などを発表・協議。 3. セミナーには医師のみならず、遠隔医療システムの構築へ向け、各研究機関の技術担当者も招聘し、技術的側面からの発表や協議を行う。 4. 各国のメンバー間は元より、医療者と技術者間の相互理解を図る。 	
期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 早期胃癌診断の教育効果に関する評価 2. 自国国内および近隣諸国への遠隔教育プログラムの展開 3. 早期胃癌治療へ向けた新たなプログラムの展開 4. 他領域における魅力的かつ継続的プログラムの作成 5. 新たな共同研究の考案 	
セミナーの運営組織	<ol style="list-style-type: none"> 1. 九州大学病院 <ol style="list-style-type: none"> 1) 全体の企画 2) プログラムの作成と技術支援 2. マラヤ大学 <ol style="list-style-type: none"> 1) 会場の準備、および共同学会との調整 2) プログラムの共同作成 3. ユーラシア横断情報ネットワーク：セミナーの共催 <ol style="list-style-type: none"> 1) 海外研究者の追加招聘にかかる資金提供 	
開催経費 分担内容	日本側	内容 外国旅費 外国旅費・謝金等に係る消費税 セミナー開催費
	(インドネシア)側	内容 経費負担なし
	(中国)側	内容 経費負担なし
	(タイ)側	内容 経費負担なし
	(マレーシア)側	内容 国内旅費 セミナー開催費
	(ベトナム)側	内容 経費負担なし

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

共同研究、セミナー以外の交流（日本国内の交流を含む）計画を記入してください。

所属・職名 派遣者名	派遣時期	訪問先・内容
国際医療部・教授 清水 周次	2017/4	ベトナム（ホーチミン）ホーチミン医科薬科大学、チョーライ病院 現地視察
国際医療部・臨床助教 麻生 暁	2017/4	ベトナム（ホーチミン）ホーチミン医科薬科大学、チョーライ病院 現地視察
復旦大学・医員 He Mengjiang	2017/6	九州大学病院 現地視察・臨床研修
上海交通大学・医員 Ruling Zhang	2017/6	九州大学病院 現地視察・臨床研修
フエ中央病院・医員 Ho Vin Linh	2017/6	九州大学病院 現地視察・臨床研修

8-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応

該当無し

9. 平成29年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	四半期	日本	インドネシア	タイ	マレーシア	中国	ベトナム	合計
日本	1		()	()	()	()	2/8 ()	2/8 (0/0)
	2		()	()	()	(3/7)	()	0/0 (3/7)
	3		()	()	10/40 (5/20)	()	()	10/40 (5/20)
	4		()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	計		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	10/40 (5/20)	0/0 (3/7)	2/8 (0/0)	12/** (8/27)
インドネシア	1	()		()	()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()		()	()	()	()	0/0 (0/0)
	3	()		()	3/12 (3/12)	()	()	3/12 (3/12)
	4	()		()	()	()	()	0/0 (0/0)
	計	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	3/12 (3/12)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	3/12 (3/12)
タイ	1	()	()		()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()		()	()	()	0/0 (0/0)
	3	()	()		3/12 (3/12)	()	()	3/12 (3/12)
	4	()	()		()	()	()	0/0 (0/0)
	計	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		3/12 (3/12)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	3/12 (3/12)
マレーシア	1	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	3	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	4	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	計	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)
中国	1	2/60 ()	()	()	()		()	2/60 (0/0)
	2	()	()	()	()		()	0/0 (0/0)
	3	()	()	()	6/24 (0/0)		()	6/24 (0/0)
	4	()	()	()	()		()	0/0 (0/0)
	計	2/60 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	6/24 (0/0)		0/0 (0/0)	8/** (0/0)
ベトナム	1	1/30 ()	()	()	()	()		1/30 (0/0)
	2	()	()	()	()	()		0/0 (0/0)
	3	()	()	()	3/12 (3/12)	()		3/12 (3/12)
	4	()	()	()	()	()		0/0 (0/0)
	計	1/30 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	3/12 (3/12)	0/0 (0/0)		4/** (3/12)
合計	1	3/90 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	2/8 (0/0)	5/98 (0/0)
	2	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (3/7)	0/0 (0/0)	0/0 (3/7)
	3	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	25/100 (14/56)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	25/100 (14/56)
	4	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)
	計	3/** (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	25/** (14/56)	0/0 (3/7)	2/8 (0/0)	30/** (17/88)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

9-2 国内での交流計画

0/0 <人/人日>

10. 平成29年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	100,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	4,850,000	
	謝金	80,000	
	備品・消耗品購入費	100,000	
	その他の経費	880,000	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税	390,000	
	計	6,400,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		640,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		7,040,000	